

せんだい・みやぎ
NPOセンター
ニュースレター
Vol.5

みみん

せんだい・みやぎNPOセンター 創立10周年にむけて

せんだい・みやぎNPOセンターはおかげさまで2007年11月に10周年を迎えます。そこで、仙台・宮城の市民活動の10年間のあゆみを中心に、当センターのオピニオンを全5回で、10周年準備号として発信していきます。

- 内容
- p1 突撃！こちらNPO取材班
 - p2~5 第5回みんみん座談会
 - p6 代表理事オビニオンコラム 加藤 哲夫
 - p7 寄稿 24年前の実感 山岡 義典さん
 - p8 スタッフNPO体験記
常務理事エッセイ ベニクロサンバ 紅邑 晶子
お知らせ、編集後記、連絡先等

突撃！こちらNPO取材班

特定非営利活動法人 東日本カウンセリングセンター

理事長：五十嵐 豊子さん

現在、東日本カウンセリングセンターの理事長を務め、ご自身もカウンセラーとして活躍中の五十嵐さんが、カウンセリングを学び始めたのは、子育ての真最中のころでした。子育てに悩む中で、悩みを分かち合える場を求めて、親業や心理学の講座を受講し勉強を始めました。

産業カウンセラーの資格をとり、カウンセリング事務所を構えた五十嵐さんは、カウンセラーを目指す人のために毎月研修会を開いていたのですが、その研修会の参加者の中から、カウンセリングを学びたいと思った人がいつでも学べる場をつくりたいという声があがりました。

ちょうどNPO法人が注目されていた時期もあり、五十嵐さんは、研修会の参加者と一緒に、カウンセリングを学んで個人や地域を援助したいと考えている人の教育・支援を行なうNPO法人として、平成15年に東日本カウンセリングセンターを立ち上げました。

東日本カウンセリングセンターの主な活動は、カウンセリング講座の開催です。年に1回、しおりがいや、子どもの虐待、いじめ問題など社会問題をテーマとしたシンポジウムを行なっています。

また、現在は、8月31日～9月2日に開

「カウンセリングで社会を見直す」



NPOが同学会の事務局を任されるのは初めて。五十嵐さんは、「この機会に、カウンセリングを学ぶことでもっと業になれるんだ」ということを知つてもらいたいですね。そして、社会を見直すきっかけになります。なつてもらわねばと思ひます」と意気込みを語ってくれました。

TEL 022-1211-9234
FAX 022-1211-9270
<http://www.npo-ejcc.org/>

担当：太田貴

第5回テーマ

コミュニティの10年

地域に根ざして活動をしている市民活動団体に、活動を始めたルーツやそれぞれの地域の今までとこれからについて検証していただきました。

木村 今回が「ホットな」を中心に活動している団体の方に「ホットな」の10年についてお話をいただきます。

木村 おお、皆さんの活動する地域はどんなところか、そして、それがどんな活動をしてこられたのかをお伺いします。

葛西 私は、宮城野区東部の田子小学校、鶴巻小学校、高砂小学校、中野小学校、田中小学校、中野栄小学校、福室小学校で情報誌『ホットな』を平成13年3月から発行し現在に至つます。活動範囲は小学校でいうと宮城野区東部の田子小学校、

1、2年やつてこないかで河北新報の販売店の方が参加したこと聞いてくれました。その絵本に因る『ホットな』読むことを始めたのは、せんせい・みやま

■活動の成果と地域の変化

みんな 座談会

minmin
TALK

当センター10周年に向けて、仙台の市民活動の歴史を俯瞰し、次のステップへの礎とするために、仙台で活躍されている市民活動団体に全5回、5つのテーマでお話をうかがいます。

座談会では、その内容をダイジェスト版として掲載し、詳しい内容は10周年記念誌として発行する予定です。

すが、少しは地域がナシティ化されてしまうのが嫌いです。

『ホットな』ところ情報誌自体も地域では市民権を得ておどりつか、たとえば『ホットな』を県で、地域のイベントに参加するところが増えてきています。

私は、もともと絵本に興味があり、読み聞かせや絵本の勉強会をしていました。そして、子どもたちや絵本を知らない人達に絵本が面白くないといふを伝えたい感じがって、地域の仲間と共に『ホットな』誌を作っていました。そういうことを始めたのは、せんせい・みやま

20センターが開いた「編集講座」に参加したいとがきつかけでしたね。

荒川 地域生活支援オレンジねりとは、平成18年2月、志を共にする仲間と共に「社会、人材育成、社会資源の発掘」といったことを始めたのは、せんせい・みやま

が、活動は4つの部門に分かれています。一つはケアズ部で、生活で困っている方の相談を受けたり、生活支援をしていました。固体が出来て約1年半になつた

ところでは出来のわざいが、お金や配布先などのルートはあつたが無かったのです。でも、新聞店の方はいつもつたる

アートを持っていました。そして、新聞店側もなにか地域に貢献したいと考えてたので、3つの新聞店の協力で、田川販賣店はクリアでまた、配布も新聞に用いて折り込みをしていきました。

木村 おお、地域に焦点をあてて、地域の問題を解決する活動をやってこられたのです。その結果、家庭は見えてみた。あとは

うのがもうひとつは仕事になりますが、私は文章

は地域の子どもに焦点をあてて、地域の問題を解決する活動をやってこられたのです。その結果、家庭は見えてみた。あとは

うのがもうひとつは仕事になりますが、私は文章

◇出席者◇



木村正樹 田代久美

特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンター

理事



荒木逸生さん 荒川陽子さん

特定非営利活動法人

グリーンライフ東北

理事(前代表代理理事)



葛西淳子さん

地域生活支援

オレンジねっと

代表



荒川陽子さん

地域こども情報誌

「ホッとね」

代表

索硬症の患者に対するボランティア活動を始めた頃は、私は鶴ヶ谷地域に住んでいました。障害者の施設が多いところで、私は地域の社会学級に参加していました。鶴ヶ谷養護学校との交流活動に参加したら、障害児を持つお母さんの方との出会いの時あります。お母さんは、お子さんの出来事も自分の生きる力として、ほんとうに感動されました。その後、南光台に引っ越しをしてから、ある事業所で、福祉ボランティアコーディネーターとして仕事を5年間してきました。その時に色々な地域の家庭支援に入りました。それまでの地域の支え合いの力の『秘密』といふものが、地域の弱者がどうものをするかを感じました。

例えば、鶴ヶ谷地域は、社会的弱者が多くて、障害をもつ方との関わりが少く、地域ですが、南光台地域は一戸建てのいわゆる高所得者が多い地域で、人間関係が固定化したところです。八戸女地域は、マンションが多く転勤族が多いので、若いパワーのある方が結構いらっしゃる地域なんですね。

少子高齢化に伴って、自分のことで精一杯で、他の人のことまで関わらざらになってしまったせの中に、支え合ひの人間関

係がだんだん崩れてきていたり、地域自身の『意識格差』がでて来ていました。いつも気がかりされました。

そこで、これから大切なのは、それを新しい風をそれぞれの地域に入れ、それを地域の人や情報や社会資源を繋ぎ合わせて、近隣の地域でお互いに支え合つ、わせて、近隣の地域でお互いに支え合つ、つながる時代になりました。

まだ、青葉区の事業から引き継いだ大倉自然塾や、今年も始めた3回目になります。以前は、いきいき青葉区推進協議会が主に設立を行っており、みんなで、今度は地域の人々が自分達でやるのではなくなりながら、担当理事や関係者は相当な負担がかかるようですね。今年からは負担を軽くするために実行委員会形式として地域内外の方々に分担して取り組んでいただこうとすることになりました。木村活動を通じて、その地域に貢献できる影響、地域が変わった感じがあります。

荒木 「いいしょがつ」を、平成15年から田村市民センターを皮切りに各地区で開催されました。もともと大倉中学校(統合により廃校)があつた場所です。地元の要望としては、跡地をどのよつて開拓するのかという事と、自分達も育つた場所から子ども達の声が消えてしまつてとても寂しく、それをいか取り戻したいといつてでした。

葛西 「いいしょがつ」を、平成15年から田村市民センターを皮切りに各地区で開催されました。もともと大倉中学校(統合により廃校)があつた場所です。地元の要望としては、跡地をどのよつて開拓するのかという事と、自分達も育つた場所から子ども達の声が消えてしまつてとても寂しく、それをいか取り戻したいといつてでした。それと、名セントラル、児童館で活躍している読み聞かせのボランティアの方々とも連絡をとりながらすすめていますので、今では他のところから出

て、地域の活性化に貢献する機会が増えました。



ねじ輪郭山やいのくちと記された。地
域に私達がやつたいいじか日々に立ち
ておこるとい感じある。

荒川 現在のメンバーは30代、40代の方
が多いのですが、その人達が入つて来た
事によつて、人々やめめ、社会にまた
ね四日形成に非常に立つていてある。

われび、自分達が色々な人と出来た事
により、ナシトワークが出来ていてある。
人の手などがこんなに繋がるのを見
じ感じていてある。とにかく、仲間作りを
しながら自分が勤めていた時の技術を生
かかひひかじめ、またも育てをしながら

した。ナシトワークは、みんなで
うつあたどこののがいいとはないか
と想つてある。これが、気持ちが薄れ
て、かなかよしにならなくなつたせん
せんの街ひそひ、ナシトワークでは
「大倉は獨立の状態であつた」を実感して
じただくものよろくなはないほんらいな
いと思ふ。

■団体の課題と取り組み

木村 次の課題といふ、団体で力を入れ
てこいといつておるといほつてある。

萬田 「ナシトワーク」の運営、これか
らは地域活性化につづける計画で

自分の好きな時間に会い開かつながり
人々は出来ぬひとのねどりのね口
ロコロはがつていてある。人の口ロコロで
うつトトアが自然に集つていてゐる
つましだ。されば、ボラントア活動を
しつる方が活動の樂しさをお語つて
いるからだと想つます。それに加へ、地

域の方が私達の活動に共感して、
事務所を貸して下さつたり、田舎の会
長さんが地域の情報を持つて来てくれた
つかゆるのになつた。されば、ボラントア団体とかサークルとか
が、ボラントア団体とかサークルとか
をひきひき作りてやの後のハローカ
な。『ナシトワーク』は、紙媒体を使つて
ソトの人に継続的に聲をだすかね、受
積極的に利用していただきながらなつた
した。ナシトワークの底

にいたどこののがいいとはないか
と想つてある。これが、気持ちが薄れ
て、かなかよしにならなくなつたせん
せんの街ひそひ、ナシトワークでは
「大倉は獨立の状態であつた」を実感して
じただくものよろくなはないほんらいな
いと思ふ。

荒川 私達の団体では、毎月確定した
収入があつません。ケニア部で活動に入
った時に、依頼者から謝礼金として一時
間7~10日頂いて、その8~10日を事
務費として納入しておる。生活保護世
帯からは事務費を頂かないといわゆつた
か。

現在 介護保険の改正に伴ひ、カー

ンペを受けられない人が非常に増えてしま
して、私たるもの依頼件数を急増してしま
う。地域の支え合ふといつて、これらの方々を巻き込んだり、制度がどうな
りたいやかねおもした地域体制を作つ
たりむやめられた地域の人の力をみんな

ねか。但し市役所はこの核となる
ハタ一かあつまることは、細やかな課題で
して、運営や連絡に対する地域ケア
の運営が自治体にならえていた。地域の
中でもう一つた資源をどう作りこんだ
のか、これもみんなで話し合つて
いるのです。そして、おおきの円か
の住民の誰もがふれあえた居場所で、
か、ヒトのことで、高齢者の方などの行
為も場所づくりをしようと願つておます。

地域の若いお母さん方がボラントア
な。『ナシトワーク』は、紙媒体を使つて
ソトの人に継続的に聲をだすかね、受
積極的に利用していただきながらなつた
した。ナシトワークを地域の福祉活動に
つなげて、新しい事業の企画などを立て
ていただけたらしく思つておます。地域では
つねねつて「ヨウジ」の様な様々なY.O.O
が活動しておますが、その「ヨウジ」の大
きな組織みかのひだ、地域は見えなく
このではないかと想つます。私は、なん
い事のことをかねて、その地域の人と繋が
つた持ちこころの人に、地域の人の輪をつ
なけてやることをして地域を育ててつ
て欲しいと願つておます。ボラントアの
活動は「今の報酬」と「自分の人生
の報酬」として大切にしておだよと願
おね。

第5回 テーマ：コミュニティの10年

もオープンしたが、じぶんセンターをオープンしたばかりのとき。オープンから、他の事業を行なむひとと精いっぱいでした。今後は、センター職員の賛同度を上げないと課題ですが、その職員が企画や事業運営をしゃかいい環境をつくるのが難しいことが理事会や事務局の役割とはいえ、年が明けてからやつといつづり内容につづいて諮詢していくと、じぶんの状況で検討できるようになります。じぶんの機能をいかなければならぬ課題となりてします。

■中間支援組織としての当センターへの期待

木村 せんだい・みやぎNPOセンターに期待したいことは、やって欲しいことがあります。

葛西 情報をうつす頃です。あります。がたいことに、せんだい・みやぎNPOセンターは、情報発信、広報、編集とかを大切に考えていて、その関連の講座を数多く開いています。私は小さい地域でやつづるので、井の中の蛙状態になつてしまふがわです。活動して困つたじき、悩んだときに教えてやつべるといふところが、軌道修正してくれるので、ア

イドアセントなどをしてやれば、そういう役割として、NPOセンターの事業の中に介在で運び、編集や広報の事業をやつてただおこなひ腰つね。

荒川 せんだい・みやぎNPOセンターは、他県のイベントの情報は全国的なレベルでいろいろな情報を下さっています。ただ私は、市民活動サポートセントラルがある中心地まだなかなか行けないのがあるので、利用はねあつてしませる。

荒木 私の認識としては、せんだい・みやぎNPOセンターの持つてこらへつかうや情報などもあれば、じぶんのアカウントを興すことが大事だと考えてます。センターが何かしてくれる恩の回を出し方を知のなくてはならない。そのための勉強もしなくてはなりません。とにかく、投げかたるもの、相談したい人に聞けば、確実にそれ以上の、

パライスをうただける組織であると思つてます。うつたどりをやりとりしてます。うつたどりの側面が、じぶんの便り使つてやれひじづり智恵が、じぶんの便りまだ回つてこなじなんですね。

田代 今回テーマが「コミュニティといつづり」がありますが、3団体とも対象としている地域が、広すぎる、狹すぎる、実際の現状物理的にも移動がある程度可能な範囲で、

人数も少なめかといつづりのが活動しているボイントにならぬのではないかと感じました。

担当：加藤哲夫・伊藤浩子・小林正夫・黒川四子

年号	制度関連の動き	仙台市の動き	座談会参加団体の動き
1996(H 8)		「環境基本条例」制定 「ひとにやさしいまちづくり条例」制定	
1997(H 9)			せんだい・みやぎNPOセンター設立
1998(H 10)	特定非営利活動促進法施行	情報・産業プラザオープン	
1999(H 11)		人口100万人達成	せんだい・みやぎNPOセンター法人格を取得 仙台市市民活動サポートセンター開館
2000(H 12)	介護保険法施行		
2001(H 13)	認定NPO法人制度施行	せんだいメディアテーク開館	地域こども情報誌「ホッとな」設立 大倉中学校等地利用基本構想の策定委員会設立
2002(H 14)	介護保険法改正 精神保健福祉法改正		
2003(H 15)	特定非営利活動促進法改正 認定NPO法人制度改正		
2005(H 17)		仙台市地域保健福祉計画策定	
2006(H 18)	障害者自立支援法改正 認定NPO法人制度改正	仙台市市民活動サポートセンター移転 コミュニティビジョン策定委員会設立	グリーンライフ東北・NPO法人化 大倉ふるさとセンター開館(7/1～) 地域生活支援 オレンジねっと設立
2007(H 19)			仙台市シニア活動支援センターオープン

団体紹介

◆地域こども情報誌『ホッとな』

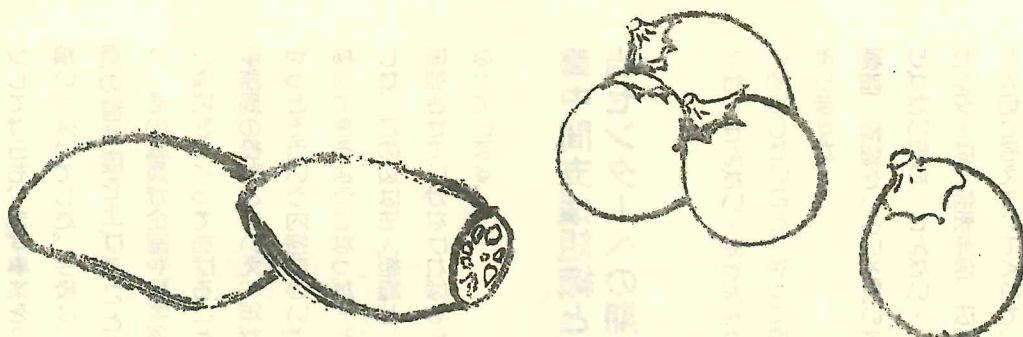
宮城野区東部を活動範囲として子どもに関する情報誌を発行している。宮城野区東部の各市民センター、児童館のイベント等地域の活動に密着した記事を掲載している。

◆地域生活支援オレンジねっと

地域の問題を解決していくためのネットワークを作り、地域住民主体のコミュニティづくり、地域の人材育成、障害理解を社会に進めている。

◆特定非営利活動法人グリーンライフ東北

大倉地域を拠点とし、地域資源を活用した持続性可能性を重視した活動を行う。地域振興、次世代を担う人づくりとまちづくりを行っている。



加藤 哲夫

憲法99条を

守らせよう！

Opinion Column

代表理事 大滝・加藤のオピニオンコラム

憲法尊重擁護義務を負うのは誰か

ほとんどの公務員は、この条文を読んでいない。だから冬に路上で凍死、実質餓死している人たちがいること自体が、憲法に保障された生存権が守られていない状態にあるということに気づかない。

しかも、第二項には、国は・・・努めなければならない、と国の生存権の保障義務がうたつてあるにもかかわらず、政府の責任を自覚することはほとんどない。

中には労働の義務を果たしていいから死んでもかまわない、という

1 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
2 国は、すべての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならぬ。

第二十五条【生存権、國の生存権保障義務】

行政職員研修の場で、私はしばしばホームレス支援の話をする。「ボランティアとは、無報酬で他人や社会に奉仕したがっている（奇特な）人たち」という先入観を打ち壊し、「そこに社会的な課題があり、市民として（公共的主体として）放っておけないから取り組む人たち」がいることを示す。そのとき必ず憲法25条の話をする。

人までいる（収容所列島・ラーゲリ）

やあるまいし！」

さらに99条は知っているか？と問う。99%の公務員はこれを知らない。

第九十九条（憲法尊重擁護義務）

天皇又は摂政及び國務大臣、國會議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負う。

つまり、この憲法は、政府、公務員が最高の尊重擁護の義務を負うものだと書いてあるのだが、誰も公務員はこの条文を知らないのである。

そう、もちろん憲法そのものを読んでいないのである。考えてみれば恐ろしい話ではないか。

憲法尊重擁護義務を負っている方々が誰もその条文を読んでいないのである。読まないで守れるのだろうか？

憲法は実は国民が守る法規ではなく、国民と政府の約束が書いてあるもので、尊重義務を負っているのは政府、公務員の側である。これを近代立憲主義といふ。わが国では憲法に道徳を書き込み、国民に守らせようとする議論が根強いか、大きな誤解である。正しい憲法論から始めよう。

*オススメ図書
『國家は僕らを守らない—愛と自由の憲法論』田村理著 朝日新書

寄稿 24年前の実感

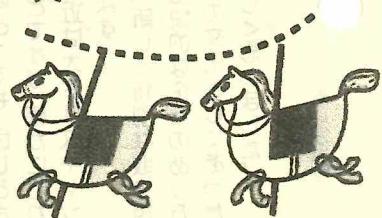
(特活) 日本NPOセンター副代表理事・法政大学教授 山岡義典

私が初めてNPOというものの重要性を実感したのは1983年10月、イエール大学のPONPO = Program on Non-Profit Organizationを訪ねたときのことだ。

トヨタ財団のプログラム・オフィサーとして、助成財団センター（設立時の名称は助成財団資料センター）の設立構想を具体化するためアメリカとカナダの関係機関を訪問調査したが、そのときに立ち寄つたものである。アメリカの大学におけるProgramというのは、外部資金によつて時間的な研究や研究を行う仕組みをいい、日本で言えば特定課題研究所に当たるPONPOを訪問したときの様子は「アメリカの第3セクター研究について」として『公益法人』1985年4月号に寄稿している。

それによると、1977-8年度にロックフェラー3世の25万ドルの寄附で始まつたこのプログラムには全米から70人余りの研究者が参加し、NPO研究の最初のうねりをつくりだしつつあった。発行済みの研究報告書のテーマも実に多様で、日本では全く未開拓の研究分野であるだけに、そのリストを見ただけでもアメリカ社会がNPOに対してむづ社会的な意味の大ささを感じ取れた気がした。

その後、Non-Profitの表記はプログラムとしてのみ残り、PONPO発行の研究報告書でもNonprofitと一つの単語として表記するようになるが、当時はその言葉の確立過程にあつたのだと思うと、そのことを含めて興味深い出会いであった。24年前のことになる。



7月28日から8月10日まで行なわれた、「仙台まちづくりカフェ（以下、まちカフェ）」に参

加しました。まちカフェは、(特活)都市デザインワークスが仙台で活動している8つのまちづくり団体に呼びかけて開催された企画です。

(特活)都市デザインワークスは、市民提案型のまちづくりを実現するため、まちの将来像を提案し、その実現に向けて様々な活動をしている団体です。まちカフェ期間中は、サンモール一番町の壱式参横丁「まちの駅」にて参加団体のパネル展示と、カフェ空間の提供、そして、参加団体のイベントが各地で行われました。

「まちの駅」では、パネルを見ながら、コーヒー片手に仙台の街について気軽に語り合うことができました。

また、仙台中心部は七夕で賑わう8月7日、伝統的な七夕を見ようとまち遺産ネット仙台が企画した「奥州街道井戸端会議『荒町のまち遺産と七夕まち歩き』」にも参加しました。まち遺産ネット仙台は、30年後も仙台の風景にあり続けて欲しいと思うものを、市民の皆さんと情報を寄せ合って保存・活用方法を考えている団体です。

まち歩きには、荒町のカリスマガイド・幸洋堂の出雲幸五郎さんがスペシャルガイドとしてたっぷり2時間半、案内してくれました。

通勤路として毎日のように荒町を通っているにも関わらず、知らない事ばかりで目からウロコの連続でした。中でも神社仏閣が8個もあり、その数の多さに驚きました。歴史的背景や、そこで暮らす人々から直にお話を伺うことで、改めて街の魅力を感じ取ることができました。

自分が住んでいる街だからこそ、当たり前になってしまい目に止まらない物が多いのではないかでしょうか。改めて、自分が住んでいる街に目を向けてみたいと思いました。

担当:内川奈津子

スタッフNPO体験記

仙台まちづくりカフェ 7月28日～8月10日と、

奥州街道井戸端会議「荒町のまち遺産と七夕まち歩き」8月7日

に参加しました。



常務理事・事務局長

紅色 晶子

「三方良し(みんぱうよ)(べんりょく)

つて、なに?」

今年度は、「月はじめからCSR(企業の社会的責任)に関する事業を担当しています。

その一つに、東証一部上場企業のCSR報告書を48項目にわたって調査するというものがあります。この調査の面白いところは、チェックする項目が「実施されているかどうか」ではなく、「実施状況を具体的に公表しているか」を評価するということです。つまり、取り組んでいるだけの表現では、「ゼロ」とカウントされ、10%でも70%でも達成率を「公表していれば」1とカウントします。

この調査方法、理解するのに時間がかかりましたが、始めてみると面白いことがあります。

たとえば、CO₂の削減に取り組んでいてもあまり成果が上がっていない企業は、「取り組んでいます」と書く傾向があり、真剣に取り組んでいる企業はめざすべき数値目標と現在の数値を出して、あとどれくらい努力すれば目標を達成できるかを明らかにしているようです。

最も、数字を示すにはそれだけの労力やコストがかかると思います。大手の企業だからできるのではという声が聞こえてきそうですが、企業が社会に対してどのように責任を果たしているかを市民が知る手がかりと考えれば、そのコストが価格に反映されても良識のある市民は理解してくれると思います。

また、48の調査項目のベースになっているのは、近江商人の「世間良し・売り手良し・買い手良し」という三方良しの考え方です。

儲けるだけでなく、地域社会にも、従業員にも、消費者にとっても、良しとする商いということですが、確かにこれを忘れた企業が最近は大きなスキャンダルを起こしています。

CSRというと、新しく特別な取り組みのようですが、伝統的な企業のあり方を示す教えが日本の文化としてあつたことを改めて語らしく思いました。

たとえば、CO₂の削減に取り組んでいてもあまり成果が上がっていない企業は、「取り組んでいます」と書く傾向があり、真剣に取り組んでいる企業はめざすべき数値目標と現在の数値を出して、あとどれくらい努力すれば目標を達成できるかを明らかにしているようです。

最も、数字を示すにはそれだけの労力やコストがかかると思います。大手の企業だからできるのではという声が聞こえてきそうですが、企業が社会に対してどのように責任を果たしているかを市民が知る手がかりと考えれば、そのコストが価格に反映されても良識のある市民は理解してくれると思います。

また、48の調査項目のベースになっているのは、近江商人の「世間良し・売り手良し・買い手良し」という三方良しの考え方です。

儲けるだけでなく、地域社会にも、従業員にも、消費者にとっても、良しとする商いということですが、確かにこれを忘れた企業が最近は大きなスキャンダルを起こしています。

CSRというと、新しく特別な取り組みのようですが、伝統的な企業のあり方を示す教えが日本の文化としてあつたことを改めて語らしく思いました。

■お知らせ■

■第9回通常総会■

日時: 9月8日(土)

13:30~15:30

会場: 仙台市市民活動サポートセンター
6Fセミナーホール

□記念講演□

日時: 9月8日(土) 16:00~17:30

会場: 仙台市市民活動サポートセンター

テーマ:『日本のNPOの10年を振りかえる』

講師: (特活)市民フォーラム21・NPOセンター

代表理事 後 房雄さん

参加費: 会員無料、非会員1,000円

■加藤哲夫のNPO経営相談■

日時: 9月11日(火) 13時~17時

場所: せんだい・みやぎNPOセンター

相談料: 2,500円

(1時間単位、会員500円割引)

※予約制です。まずはお電話を!

みん編集後記みん

最近、「うちも10周年なのですよ。」というNPOの方によく会います。NPO法の施行から来年で10年ということもあり、多くの団体が区切りの年を迎えているのかも。全5回の「みんみん座談会」を10周年記念誌としてまとめますので、ご期待ください!(眞空)

創立10周年準備号として、市民活動の10年のあゆみをテーマに、無事全5回の発行を終了しました。毎回、人を支える人の集まり(市民活動団体)のお話に、感慨深いものがあります。ご協力いただきました皆様ありがとうございます。(ゆうさ)

協働コーディネーター養成講座が終了した、受講した行政の方から「NPOの方々とのグループワークを通して、いろんな議論ができとても参考になりました。同時に期待の大きさも知ったのですますがんばらなくては!」というコメントを頂戴した。こんな場づくりをこれからも続けたい。(遠藤)

連絡先・振込み先など

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

TEL: 022-264-1281 FAX: 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org http://www.minmin.org/

郵便振替: 02260-3-16325

特定非営利活動法人 仙台銀行 中央通支店: 普通4094031 加入者: せんだい・みやぎNPOセンター

発行: (特活) せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事 大滝精一・加藤哲夫

編集長: 真壁さおり

編集班: 遊佐さゆり、遠藤智栄

発行日: 2007年8月29日

隔月発行(2007年8月まで)、無料

イラスト(表紙/6ページ): 渋谷 丹

デザイン: 真山正太さん

